

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	朝日大学
設置者名	学校法人朝日大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
法学部	法学科	夜・通信		17	36	53	13	
経営学部	経営学科	夜・通信		24	138	162	13	
保健医療学部	看護学科	夜・通信			86	86	13	
	健康スポーツ科学科	夜・通信			15	15	13	
歯学部	歯学科	夜・通信			177.5	177.5	19	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

法学部： https://risyu.asahi-u.ac.jp/pdf/law_2019.pdf 経営学部： https://risyu.asahi-u.ac.jp/pdf/mg_ke2019.pdf 保健医療学部看護学科： https://risyu.asahi-u.ac.jp/pdf/kango_2019.pdf 保健医療学部健康スポーツ科学科： https://risyu.asahi-u.ac.jp/pdf/sports_2019.pdf 歯学部： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/file/2019_jitsumuka.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	朝日大学
設置者名	学校法人朝日大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

朝日大学ホームページに掲載 http://www.asahi-u.ac.jp/inf/yakuin_2019.html

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	法律事務所（弁護士）	2019.6.1～ 2023.5.31	法務に関するチェック機能
非常勤	法律事務所（弁護士）	2019.6.1～ 2023.5.31	法務に関するチェック機能
非常勤	私立大学（教授）	2019.6.1～ 2023.5.31	教育研究体制に関するチェック機能
非常勤	広告社 （代表取締役社長）	2019.6.1～ 2023.5.31	人事・労務に関するチェック機能
非常勤	法律事務所（弁護士）	2019.6.1～ 2023.5.31	法務に関するチェック機能
（備考）			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	朝日大学
設置者名	学校法人朝日大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画書(シラバス)の作成は、毎年10月以降、教務学生委員会、教授会等において、各学部等の次年度授業計画を決定し、その後、各授業科目担当教員に対し、授業計画書(シラバス)作成に必要な、「講義概要」「到達目標・卒業要件との関連」「授業計画・時間外学修」「履修の条件・注意事項」「成績評価基準方法」「テキスト」「参考書」「オフィス・アワー」等を記載した作成要領について、FD研修会において説明・確認を行ったうえで作成を依頼している。</p> <p>授業担当教員が作成した授業計画書(シラバス)は、2月～3月中旬に、各学部において、学部長等のチェックを実施し、授業計画書(シラバス)が正しく記載されているかを確認の上、必要に応じて修正を求めている。</p> <p>作成した授業計画書(シラバス)は、3月下旬までに、大学ホームページで公表している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>法・経営・保健医療学部 https://risyu.asahi-u.ac.jp/ 歯学部 http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_dn_syllabus.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位の授与及び成績評価は、学則第26条及び第30条に基づき、試験の成績、平素の学修成績、出席状況等を総合して行っている。ただし、学修の成果を評価して単位を授与することが適切であると認められる授業科目については、各学部細則に定めるところにより当該学修の成果を評価して単位を授与している。</p> <p>成績評価基準は、科目毎に「定期試験」「授業の取り組み状況」「レポート」「小テスト」等の割合を定め、履修要覧やホームページに記載し、あらかじめ学生に対し公表している。</p> <p>各授業科目の成績評価は、授業計画書(シラバス)に明示した成績評価の方法と基準に従い、各教員が評価を行っている。また、一つの科目で、複数教員が担当する科目においては、成績分布に関する申し合わせ等を行い、評価にばらつきや不公平が生じないように認識の統一を図るなど、厳格かつ適正に評価し行っている。</p> <p>成績の評価は、GPAに換算し、学生に周知しており、その結果を履修上限の緩和等への活用も行っている。</p>	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価については、アセスメントポリシーに関する規程において、学生の学修成果の評価の方針（アセスメントポリシー）について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法等に関し必要な事項を定め、達成すべき質的水準については、同規程第4条において、GPA制度に関する規程に基づきGPAを算出する制度を定める。

GPAの算出方式は、学生が当該年度（または、在学中の全ての期間）に成績評価を受けた授業科目を次表のグレード・ポイント（GP）に変換し、当該科目の単位数を乗じて、その総和を履修登録合計単位数で除した値（小数点第3位以下切り捨て）とする。

成績評価（点数：100点満点）	GP
S（100～90点）	4.0
A（89～80点）	3.0
B（79点～70点）	2.0
C（69～60点）	1.0
D（59点以下）	0.0

<GPA算出方法>

$$\frac{(S \text{ 評価の単位数} \times 4) + (A \text{ 評価の単位数} \times 3) + (B \text{ 評価の単位数} \times 2) + (C \text{ 評価の単位数} \times 1)}{\text{履修登録合計単位数}}$$

(※ なお、教職課程科目、単位認定科目については、その計算式には含めない。)

GPAを活用した調査、分析は、授業科目については、各学部FD委員会及び担当教員が授業科目の成績評価の分布及び授業評価の結果を確認し、授業の改善・向上・開発に取り組んでいる。教育課程については、各学部・学科において検証の結果を共有し、全学又は学部・学科として改善・向上・開発に取り組んでいる。

また、各学部は、全学FD委員会及びIR推進本部へ定期的にデータ提供を行い、IR推進本部において成績分布やGPAなどの分析を行っており、全学部生のGPA分布（ヒストグラム）をホームページ上で公表している。

また、科目別学業成績（年度別比較表）を学期終了時に作成し、教務担当事務窓口にて公表している。（学内のみ公表。）

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<アセスメントポリシー>

http://www.asahi-u.ac.jp/inf/file/assessment_policy_201907.pdf

<GPA制度>

http://www.asahi-u.ac.jp/inf/file/gpa_201907.pdf

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○法学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げている。本学部にて4年以上在学し、所定の単位（124単位以上）を修得した者に対して、学士（法学）の学位を授与している。

教養教育科目（共通） 必修8単位、選択26単位以上

法学専門教育科目（コースを選択）

公務員コース 必修58単位、選択必修12単位以上、選択8単位以上

企業法務コース 必修46単位、選択必修16単位以上、選択16単位以上

演習科目（共通） 必修12単位

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 基本六法を中心とする諸法律に関する幅広い知識及び高度な専門性を有する分野の知識を身に付けている。
2. 社会情勢の変化や多様なニーズに対応し得る法的思考能力及び判断力、行動力を身に付けている。
3. 上記1と2の能力を法曹、行政、税務等の専門的職業において発揮するための応用力を身に付けている。
4. 深い教養と豊かな人間性及び国際性を身に付けている。

卒業認定は、学則第34条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○経営学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げている。本学部にて4年以上在学し、所定の単位（124単位以上）を修得した者に対して、学士（経営学）の学位を授与することとしている。

基礎教育科目 必修8単位、総合教育科目 選択22単位以上

言語教育科目 選択必修4単位

専門教育科目 必修42単位、選択必修8単位、選択40単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. ビジネスマインドを備え、地域と事業の発展に貢献し、組織の一分野を担いうる知識と技量を身につけている。
2. 情報を活用して適切なコミュニケーションと意思決定を行いうる知識と技量を身につけている。
3. ソーシャル・キャピタルを理解し、実践的に経営に参画、挑戦できる企画力・実践力を身につけている。

卒業認定は、学則第34条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○保健医療学部看護学科

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位（125 単位以上）を修得した者に対して、学士（看護学）の学位を授与している。

教養基礎科目 必修 14 単位、選択 10 単位以上

専門基礎科目 必修 28 単位、選択 1 単位以上

専門科目 必修 70 単位、選択 2 単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 看護の対象となる人々を全人的に理解し、関係を構築する能力を身につけている。
2. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する姿勢と高い倫理観を身につけている。
3. 保健医療福祉チームの一員として、多職種間で連携・協働できる基礎的能力を身につけている。
4. 根拠に基づき必要とされる看護を判断し、計画的に実践する能力を身につけている。
5. 社会人としての豊かな学識、国際性を身につけている。
6. 看護が果たすべき社会的責務を理解し、社会に貢献する基礎的能力を身につけている。
7. 看護学の発展に寄与できる探求心および基礎的な研究的態度を身につけている。

卒業認定に関する規定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○保健医療学部健康スポーツ科学科

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位（124 単位以上）を修得した者に対して、学士（健康スポーツ科学）の学位を授与している。

教養基礎科目 必修 8 単位、選択 18 単位以上

専門教育科目 必修 76 単位、選択必修 2 単位、選択 20 単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. オールラウンドなスポーツ実践能力
2. ライフステージに応じたスポーツ指導能力
3. 健康やスポーツを科学的視点から捉える思考能力
4. スポーツにおける企画及び管理・運営能力

卒業認定に関する規定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○歯学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位を修得した者に対して、学士（歯学）の学位を授与することとしている。

基礎教育系科目 23 単位以上

専門教育系科目 6,775 時間以上履修し、修了の認定を受ける

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 歯科医師として必要な倫理観や人間性を身につけるとともに、幅広い知識と豊かな教養を有している。
2. 地域社会や国際未来社会で活躍できるコミュニケーション能力や英語能力を有しているとともに幅広い視野とリーダーシップを有している。
3. 歯科医学の専門知識及び口腔疾患の予防・診断・治療に関する知識・技能を修得している。
4. 全身医学との関連を理解し、患者にとって良質で安全な歯科医療を実践することができる。
5. 多様化する地域社会の歯科医療ニーズにきめ細やかに対応し、口腔ケア、在宅歯科診療や、地域包括ケアシステムなど多職種連携チーム医療をもとに、地域社会に貢献する歯科医療を実践できる高い臨床能力を身につけている。
6. 研究心と論理的思考能力を持って日々進歩する歯科医学・歯科医療を常に研鑽し、歯科医療の発展のために生涯にわたり自らの歯科医療の知識と技術の向上を図ることができる。

卒業認定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

卒業の認定に関する 方針の公表方法	法学部 http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_lw.html 経営学部 http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_mg.html 保健医療学部看護学科 http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_kango_toku.html 保健医療学部健康スポーツ科学科 http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/sports_gaiyo.html 歯学部 http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_dn.html
----------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	朝日大学
設置者名	学校法人朝日大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://www.asahi-u.ac.jp/inf/f_jigyou.html
収支計算書又は損益計算書	http://www.asahi-u.ac.jp/inf/f_jigyou.html
財産目録	朝日大学事業報告・決算内に掲載 http://www.asahi-u.ac.jp/inf/file/18disclosure.pdf
事業報告書	http://www.asahi-u.ac.jp/inf/f_jigyou.html
監事による監査報告(書)	朝日大学事業報告・決算内に掲載 http://www.asahi-u.ac.jp/inf/file/18disclosure.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:朝日大学事業計画)	対象年度:2019年度)
公表方法: http://www.asahi-u.ac.jp/inf/file/jkeikaku_2019.pdf	
中長期計画(名称:朝日大学の中期目標・中期計画)	対象年度:2016年度~2020年度)
公表方法: http://www.asahi-u.ac.jp/inf/file/中期目標・中期計画(2016年度~2020年度).pdf	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.asahi-u.ac.jp/inf/f_selfcheck.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.asahi-u.ac.jp/inf/f_ninsyou.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 法学部
教育研究上の目的 (公表方法 : http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_lw.html)
(概要) 教育目的は、建学の精神に則り次の三つの教育を柱とし、多様化・国際化した社会に対応できる法的なものの考え方(リーガルマインド)を有する人材の育成を目指しています。 1. 人間形成を尊重した教育 大学教育の基本は、人間形成であり人間性の尊重です。従って法学部では、専門知識を教授すると共に幅広く深い教養及び総合的な判断力を養い、豊かな人間性を涵養します。 2. 法律学の基本科目を尊重した教育 法律学の基本科目を重視した教育と研究を徹底して行い、法律知識と法的なものの考え方を会得させることにより、社会に生起するさまざまなケースについて、問題点を法的に把握し、整理し、対処するための能力を養成します。 3. 社会の変化と要請に対応する教育 国際化、情報化、高齢化といった社会の変化に伴い、従来の研究方法、研究範囲では対処し切れないさまざまな法律問題が発生してきたことから、これらの問題を予防し、解決するために必要な教育、研究を行い、それらに対応できる人間を育成します。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_lw.html)
(概要) 卒業時に次の到達目標(ディプロマ・ポリシー)を達成することを掲げています。 本学部に4年以上在学し、所定の単位を修得した者に対して、学士(法学)の学位を授与することとしています。 1. 基本六法を中心とする諸法律に関する幅広い知識及び高度な専門性を有する分野の知識を身に付けている。 2. 社会情勢の変化や多様なニーズに対応し得る法的思考能力及び判断力、行動力を身に付けている。 3. 上記1と2の能力を法曹、行政、税務等の専門的職業において発揮するための応用力を身に付けている。 4. 深い教養と豊かな人間性及び国際性を身に付けている。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_lw.html)
(概要) 法学の専門知識及び社会人としての豊かな学識と技能を体系的に教授研究し、社会情勢の変化に対応し得る法的思考能力と判断力及び深い教養と豊かな人間性・国際性を兼ね備えた人材を養成することを教育目的としており、これを達成するため、次のとおり教育課程の編成方針を定め、それぞれの目的に応じた授業科目を開設することとしています。 1. 問題の本質を見抜き、解決できる能力を身に付けるため教養科目を重視(社会・情報・自然科学等の科目を配置)するとともに、言語教育、専門科目を体系的にバランスよく配置する。 2. 学生の進路目標に合わせた2つのコース(「公務員コース」及び「企業法務コース」)を設置し、それぞれにおいて専門的かつ実践的な教育を行う。 なお、両コースとも、基本六法の徹底からスタートし、学年進行に合わせて、学生の進路目標達成のために最適な発展科目や関連科目を学習し、自己表現能力、情報収集・分析力などを修得できるよう、体系的な科目配置とし、さらに、これらを基に資格試験・就職試験等に対応する学修を集中的に行う実用科目も配置する。 3. 少人数クラスで構成する演習を4年間に渡って開講し、専門テーマごとの指導に加え、修学に関する事項から就職指導に至るまでの個別教育を徹底して行い、創造性を身に付

ける。 4. 社会性と国際性を身に付けるため、インターンシップや法廷見学、海外語学研修等を積極的に取り入れることとし、このため、各授業科目においては、厳格な成績評価基準に基づく単位認定を行うことで、教育の質及び成果の維持・向上に努めるものとする。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_lw.html ）
（概要） 建学の精神を具現化していくために必要な基礎学力として国語又は公民に関する知識を有し、次のような能力・関心のある入学生を求めています。 1. 協調性や基本的コミュニケーション能力がある人（協調する人） 2. 現代的な課題に対し、主体的に考え、取り組もうとする人（創造する人） 3. 社会のルールを尊重し、行動する人（ルールを守る人） 4. 多様化した国際社会の変化に関心のある人（国際未来社会を切り拓く人） 5. リーガルマインドを身に付け、社会に発生する諸問題を解決しようとする人（問題解決のために努力をする人）
学部等名 経営学部
教育研究上の目的（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_mg.html ）
（概要） 教育目的は、社会性と創造性、人間的知性に富む人間の育成という建学の精神にのっとり、地域社会全体の持続可能性と国際未来社会を結びつけうる人材を養成することにあります。 この理念を達成するために、次のとおり人材を育成することに努めています。 1. 地域社会の活動の本質とそのつながりを理解し、国際的な交易の中で地域を支えうる継続する組織が、どのような意思決定を行い、どのように諸問題を分析していけばよいのかを理論の学びから考え、身に付け、管理できる人材を育成します。 2. 実社会組織を模したアクティブラーニングの場の中で、言葉で伝えづらい気づきや体験を誰にでも伝わる表現にまとめ、その理論を学ぶことにより、地域や社会の諸問題の構造を分析し、それに対処する適切な行動を実践できる能力を持つ人材を育成します。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_mg.html ）
（概要） 卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げています。 本学部に4年以上在学し、所定の単位を修得した者に対して、学士の学位を授与することとしています。 1. ビジネスマインドを備え、地域と事業の発展に貢献し、組織の一分野を担いうる知識と技量を身につけている。 2. 情報を活用して適切なコミュニケーションと意思決定を行いうる知識と技量を身につけている。 3. ソーシャル・キャピタルを理解し、実践的に経営に参画、挑戦できる企画力・実践力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_mg.html ）
（概要） 地域社会全体の持続可能性と国際未来社会を結びつけうる人材、すなわち地域社会に貢献できる人材を養成することを教育目標とし体系的なカリキュラムを用意しています。このため入学後は学科にとらわれず学部共通の必修科目を中心に学習します。その内訳は、社会人としての幅広い教養を修得する共通教育の基礎教育科目と、経営学の基本的な体系を広く身につける専門教育基幹科目となります。 その後、共通教育科目については、さらに各自の興味関心に応じ選択で人文科学、社会科学、自然科学等の総合教育科目や言語教育科目を履修します。 専門教育科目はさらに、社会性を身につける社会連携科目にくわえ、それぞれの学びを

さらに深める基礎科目、また学科に応じ専門性を一層高める学科科目を履修します。

講義科目の多くは、試験をもとに、課題への取組みなどを考慮し総合的に評価されます。これらの科目の履修にあたっては、教員が少人数の学生と密接にかかわり教育を行う目的で必修の演習科目を履修してもらいます。1年生の基礎演習では、学生それぞれの希望や資質に応じ学びの領域（コース）を教員が助言し、それに応じた履修モデル（カリキュラム・マップ）を示しながら、各自が学習計画と目標をたてられるよう指導していきます。また2年生以降の専門演習では履修モデルで学んだ知識を応用しながら、それぞれの学びの領域に応じた知識と思考法、問題解決法を獲得するための選択と意思決定等を学びます。演習科目では、地域貢献の土台となる信頼を生み出す人間関係やソーシャル・キャピタルを体感することも重要な課題であり、演習への貢献意欲やコミュニケーションも評価されます。

なお、それぞれの学科における代表的な学びの領域（コース）は以下のとおりです。各領域に応じた履修モデル（カリキュラム・マップ）が示されます。

地域社会の活動の本質とそのつながりを理解し、国際的な交易の中で地域を支える継続する組織が、どのような意思決定を行い、どのように諸問題を分析していけばよいのかを理論の学びから考え、身に付け、管理できる人材を育成します。

<会計・ファイナンス>

「継続的事業体」の活動を貨幣数値的に把握、分析し、これをさまざまな利害関係者に伝達し、その意思決定に貢献する情報とすることができる知識と技量を身につける。

<国際流通>

国内外の生産と消費の間の取引を効果的にすすめるための商業・流通・物流についての管理の知識と技量を身につける。

<マーケティング>

地域ブランドのシーズを調査し、商品開発や販売促進する方法を身につけ、他地域に情報発信できる知識と技量を身につける。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_mg.html）

（概要）

地域や社会に役立ちたいという使命感を持ち、将来それを支える活動に主体的かつ積極的に貢献する意欲のある次のような入学生を求めています。

1. 大学内の各種活動をはじめとした社会的活動に積極的に参画する意識を持ち続けられる人（本学部への参画意識）
2. 地域や社会で起こっている事象への関心と、それに関わる人間の行為、組織や社会の活動に強い興味を持っている人（社会への関心）
3. 高校生活を通じクラブ活動や社会活動等に積極的に参加するなど、他者と協働するコミュニケーション能力を備えている人（コミュニケーション力）
4. 高等学校での国語を中心とした主要科目の教科書レベルの幅広い知識や、専門高等学校での商業科目の基本的な知識と技能を修得している人
留学生については、基本的な日本語能力を持つ人（知識・思考力）
5. 将来、地域や社会に役立ちたいとの思いを持つ人（意欲）

学部等名 保健医療学部看護学科

教育研究上の目的（公表方法：http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_kango_toku.html）

（概要）

保健医療学部の教育目的は、本学の建学の精神に基づき、大学4年間で確かな学士力を身に付けることを基本とし、保健衛生学の専門知識並びに高度な医療技術及び社会人としての豊かな学識と技能を体系的に教授研究し、高い倫理観と豊かな人間性と国際性を兼ね備え、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。

看護学科では、人を思う心をもって人間関係を構築する力、自己研鑽して未来を切り開く力、社会に貢献し変革する力を持ち、あらゆる健康レベルにある人のニーズに対応できる看護職を育成することを教育目的とする。このために必要となる教育研究体制を整備し、保健・医療・福祉分野において高度化・多様化する看護実践の在り方を研究し、その成果

を社会に還元することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_kango_toku.html ）
<p>（概要）</p> <p>卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位を修得した者に対して、学士（看護学）の学位を授与することとしています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の対象となる人々を全人的に理解し、関係を構築する能力を身につけている。 2. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する姿勢と高い倫理観を身につけている。 3. 保健医療福祉チームの一員として、多職種間で連携・協働できる基礎的能力を身につけている。 4. 根拠に基づき必要とされる看護を判断し、計画的に実践する能力を身につけている。 5. 社会人としての豊かな学識、国際性を身につけている。 6. 看護が果たすべき社会的責務を理解し、社会に貢献する基礎的能力を身につけている。 7. 看護学の発展に寄与できる探求心および基礎的な研究的態度を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_kango_toku.html ）
<p>（概要）</p> <p>教育課程を、次のとおり「教養基礎科目」、「専門基礎科目」、「専門科目」に区分し、適切な科目を配置する。</p> <p>なお、科目の配置は、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に準拠するものとする。</p> <p><教養基礎科目></p> <p>教養基礎科目では、幅広い教養を身につけるとともに倫理的な考え方や物事を多面的にとらえる力を養い、また、異文化や異なる環境にある人への理解を深め、社会の中で創造的に行動していく力を育成する。</p> <p><専門基礎科目></p> <p>専門基礎科目では、看護学が人を対象とする学問基盤であることへの理解を深め、からだや病気、障がいに関する高度な知識を身につける。</p> <p><専門科目></p> <p>教養基礎科目、専門基礎科目の既習知識と看護学の知識、技術を統合させ、看護学を幅広い視点で探究的に学び、統合する。</p> <p>また、臨地実習においては、さまざまな場で生活する人々のあらゆる健康レベル、発達段階に対して、講義・演習等で学んだ看護学等の知識・技術を、看護の対象者への実際的な関わりを通して実践し、対象者に応じた総合的な看護実践能力を育成する。</p>
入学者の受入れに関する方針（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_kango_toku.html ）
<p>（概要）</p> <p>次のような者を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護学を学ぶために必要な基礎学力を備え、自らすすんで学ぼうとする人 2. 生命に対して尊厳をもち、さまざまな価値観を認めることができる人 3. 保健医療福祉活動を通して社会に貢献することを望む人 4. 誠実で思いやりをもって他者と関わることができる人 5. 他者の意見を聴き、自分の考えを表現できる人 6. 探求心をもち、課題解決に積極的に取り組むことができる人

学部等名 保健医療学部健康スポーツ科学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/sports_gaiyo.html ）
<p>（概要）</p> <p>保健医療学部は、本学の建学の精神に基づき、大学4年間で確かな学士力を身に付けることを基本とし、高い倫理観と豊かな人間性と国際性を兼ね備え、社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。</p> <p>健康スポーツ科学科は、研究対象とする中心分野を健康科学及びスポーツ科学の分野とし、これに関する教育研究を通して、健康科学やスポーツ科学に関する専門知識並びに高</p>

<p>度なスポーツ実践技能及び指導技術さらに社会人としての豊かな学識と社会的技量を修得し、高い倫理観と豊かな人間性と国際性を兼ね備え、社会に貢献できる人材を養成する。」ことを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/sports_gaiyo.html）</p> <p>（概要）</p> <p>卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位を修得した者に対して、学士（健康スポーツ科学）の学位を授与することとしています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オールラウンドなスポーツ実践能力 2. ライフステージに応じたスポーツ指導能力 3. 健康やスポーツを科学的視点から捉える思考能力 4. スポーツにおける企画及び管理・運営能力
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/sports_gaiyo.html）</p> <p>（概要）</p> <p>オールラウンドなスポーツ実践能力、ライフステージに応じたスポーツ指導能力、健康やスポーツを科学的視点から捉える思考能力並びにスポーツにおける企画及び管理・運営能力を身に付けさせ、健康やスポーツに関する知識・技術・技能を修得させることを目標として、これに必要な授業科目を体系的に編成し、講義、演習、実技、実験・実習を適切に組み合わせた授業を開講することである。</p> <p>加えて、4年間の限られた大学教育課程の中で、全ての学生が共通に必要なとなる、保健体育教員やスポーツ指導者としての基本的な資質や能力を修得させることが重要であるとの考えから、必修科目を多く設定し、必要な知識を確実に修得した上で、科目選択させることとする。これは、既に医学教育や歯学教育において、文部科学省の指導による「モデル・コア・カリキュラム」を基盤にしたカリキュラム編成がなされており、医師又は歯科医師として求められる基本的な資質を明確にし、これを確実に修得させるようにしている。歯学部、保健医療学部看護学部においても同様の考えに基づき教育課程を編成しており、将来の進路目標が明確な学部においては有効かつ必要な手段と考える。</p> <p>具体的には、カリキュラムポリシーに基づき、本学科が養成を目指す人材（「中学校・高等学校の保健体育教員」、「ライフステージに応じた指導のできる人材」、「地域のスポーツを支える人材」）の基盤を確実に学ぶことができるよう、必修科目を配置するとともに、「健康科学コース」と「スポーツ科学コース」を設置し、それぞれの履修モデルを学生に提示し、選択履修させることにより、将来の進む分野に必要な知識・技術・技能の修得が可能となるようにする。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/sports_gaiyo.html）</p> <p>（概要）</p> <p>健康科学やスポーツ科学に関心を持ち、次のような能力、意欲を持った入学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 協調性や基本的コミュニケーション能力がある人 2. 入学後、スポーツ活動や社会活動に積極的に参画する意欲がある人 3. 高等学校等における学習を通して、外国語（英語）並びに国語、数学又は理科の基本的な知識や技能を習得している人 4. 将来、地域や社会で次のとおり活躍したいと思っている人 <ul style="list-style-type: none"> ・保健体育の教員を希望している。 ・地域スポーツの推進に貢献したい。 ・スポーツリーダーとして活躍したい。

学部等名 歯学部歯学科
教育研究上の目的（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_dn.html ）
<p>（概要）</p> <p>教育目的は、建学の精神にのっとり、グローバル化する医療の中で、高い倫理観をもって常に患者の気持ちに向き合い、社会貢献に積極的に関与できる、豊かな人間性・国際性を兼ね備えた歯科医師を養成することにあります。そのため、教養教育と歯科医学の専門教育で構成した系統教育および統合教育により、高度な専門知識と専門技術を習得し、高い倫理観と教養を身につけ、地域社会に貢献するとともに国際社会にも通用する歯科医師の育成を目指しています。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_dn.html ）
<p>（概要）</p> <p>卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位を修得した者に対して、学士（歯学）の学位を授与することとしています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯科医師として必要な倫理観や人間性を身につけるとともに、幅広い知識と豊かな教養を有している。 2. 地域社会や国際未来社会で活躍できるコミュニケーション能力や英語能力を有しているとともに幅広い視野とリーダーシップを有している。 3. 歯科医学の専門知識及び口腔疾患の予防・診断・治療に関する知識・技能を修得している。 4. 全身医学との関連を理解し、患者にとって良質で安全な歯科医療を実践することができる。 5. 多様化する地域社会の歯科医療ニーズにきめ細やかに対応し、口腔ケア、在宅歯科診療や、地域包括ケアシステムなど多職種連携チーム医療をもとに、地域社会に貢献する歯科医療を実践できる高い臨床能力を身につけている。 6. 研究心と論理的思考能力を持って日々進歩する歯科医学・歯科医療を常に研鑽し、歯科医療の発展のために生涯にわたり自らの歯科医療の知識と技術の向上を図ることができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法： http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_dn.html ）
<p>（概要）</p> <p>教育課程の編成方針を次のとおり定め、必要な授業科目を系統的あるいは統合的に開設しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い知識と豊かな教養について、基礎教育系科目を通じて学修するとともに、歯科医師として必要な倫理観や人間性について、「建学の精神と社会生活」、「患者と医療」、「解剖学実習」等を通じて学修する。 2. 歯科医師として必要な人間性、国際性を身につけるため、「基礎ゼミ」、「英会話」等を通じて、コミュニケーション能力、英語能力及び歯科医師へのモチベーションの向上を図る。 3. 歯科医学の基本となる生命科学について理解する上で必要な人体や歯の構造・機能、病態について解剖学、生理学、病理学、生化学、微生物学、薬理学等の科目を設け系統かつ多元的に学修するとともに、生体材料学については歯科理工学を設け学修する。 4. 歯科医学の専門知識及び高度な医療技術を習得するため、臨床系科目を開設し、講義及び実習を通じて歯科医師として必要な知識・技能・態度を身につける。 5. 朝日大学医科歯科医療センターおよび朝日大学病院等の臨床の現場において、臨床経験豊富な教員による多様な歯科医療ニーズに対応した実践的な実習教育を行い、社会的需要を見据えた歯科医師となるための能力を習得する。 6. 全身医学の基礎、全身医学と歯科医療との関連について、「口腔外科学」、「麻酔学」、「内科学」、「外科学」、「隣接医科学」等を通じて学修する。 7. 少子高齢社会の進展にともなって多様化する歯科医療ニーズに対応し、岐阜県の地域特性を活かし、口腔ケア、在宅歯科診療、地域包括ケアシステム、多職種連携チーム医療など、地域社会に貢献するための歯科医療を統合的スパイラル教育にて学修する。

8. 積極的な自主的学習態度と理論的思考能力を養い、問題発見・解決に自ら取り組む学習手法を習得するために、探究型学習（高次元アクティブラーニング）を活用する。
9. 研究マインドを持った医療人の育成のために、研究室での研究実習を実施する。
10. 国際人としての素養を修得するため、海外研修を推進する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：http://www.asahi-u.ac.jp/dpt/f_dn.html）

（概要）

教育理念に基づく教育目標を達成するために、「求める学生像」を定めています。入学試験において、高等学校段階までに培ってきた能力を多様な「選抜方法」により評価を行い、社会人、留学生を含む意欲ある学生の受入れを行っています。

＜求める学生像＞

教育目標を十分に理解し、国際社会と地域社会貢献に積極的な意識を持つ、次の入学生を求めています。

1. 生命を尊重し、他人を思いやる心がある人（倫理観）
2. 自己の考えを適切に相手に伝える基礎的表現力や、相手の話を積極的に理解しようとする意識が高く、協調性のある人（表現力）
3. 国際社会への関心が高く、英語による基礎的コミュニケーション能力を備えている人（コミュニケーション力）
4. 高等学校学習指導要領に基づく数学、理科の基本的な知識を身につけ、論理的思考力を有する人（知識・思考力）
5. 歯科医師を目指す強い意志と、卒業後も生涯にわたって医療を通じた社会貢献が期待できる人（意欲）
6. 心身の健康増進に努め、日々の努力を惜しまず自己目標を完遂する力のある人（医療人としての資質）

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：http://www.asahi-u.ac.jp/inf/f_soshiki.html ※法人組織図

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4人	—					4人
法学部	—	6人	8人	3人	0人	0人	17人
経営学部	—	16人	11人	1人	0人	0人	28人
保健医療学部	—	20人	9人	7人	13人	7人	56人
歯学部	—	47人	30人	35人	48人	0人	160人
附属病院	—	0人	0人	1人	21人	0人	22人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		532人					532人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： https://gyoseki.asahi-u.ac.jp/ashuhp/KgApp					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
教育の改善・充実を目的とし、学内外から講師を招へいして年7回程度の実践的・体系的な全学FD活動を実施している。さらに各学部においても、年数回程度のFD活動を実施している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
法学部	80人	114人	142.5%	320人	371人	115.9%	—人	1人
経営学部	100人	132人	132.0%	570人	605人	106.1%	—人	0人
保健医療学部	200人	226人	113.0%	680人	744人	109.4%	—人	0人
歯学部	140人	129人	92.1%	840人	851人	101.3%	—人	8人
合計	520人	601人	115.6%	2,410人	2,571人	106.7%	—人	9人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
法学部	95人 (100%)	4人 (4.2%)	89人 (93.7%)	2人 (2.1%)
経営学部	183人 (100%)	6人 (3.3%)	167人 (91.3%)	10人 (5.5%)
保健医療学部	76人 (100%)	3人 (4.0%)	70人 (92.1%)	3人 (4.0%)
歯学部	102人 (100%)	0人 (0%)	70人 (68.6%)	32人 (31.4%)
合計	456人 (100%)	13人 (2.9%)	396人 (86.8%)	47人 (10.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
<p><法学部・経営学部> ANA 中部空港、プリンスホテル、青山商事、スズケン、ニトリ、ジャパンマテリアル、日本製鉄、マツダ、警視庁、JR 九州、JR 北海道、西濃運輸、日本郵便、岡三証券、第一生命保険、野村証券、みずほ銀行、PwC あらた有限責任監査法人 ほか</p> <p><保健医療学部看護学科> 朝日大学病院、大垣市民病院、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県総合医療センター、岐阜市民病院、松波総合病院、木沢記念病院、長良医療センター、江南厚生病院、一宮西病院、大雄会病院、一宮市立市民病院、国立病院機構東名古屋病院、藤田医科大学病院 ほか</p> <p><歯学部> 朝日大学医科歯科医療センター、大阪歯科大学附属病院、広島大学病院、名古屋大学医学部附属病院、神戸大学医学部附属病院 ほか</p>				
(備考) 保健医療学部健康スポーツ科学科は、未完成学部のため卒業生なし。				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
法学部	101人 (100%)	85人 (84.2%)	5人 (5.0%)	11人 (10.9%)	0人 (0%)
経営学部	187人 (100%)	166人 (88.8%)	8人 (4.3%)	13人 (7.0%)	0人 (0%)
保健医療学部	82人 (100%)	74人 (90.2%)	4人 (4.9%)	4人 (4.9%)	0人 (0%)
歯学部	128人 (100%)	70人 (54.7%)	40人 (31.3%)	18人 (14.1%)	0人 (0%)
合計	500人 (100%)	395人 (79.0%)	57人 (11.4%)	46人 (9.2%)	0人 (0%)
(備考) 保健医療学部健康スポーツ科学科は、未完成学部のため除外した。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

授業計画書(シラバス)の作成は、毎年10月以降、教務学生委員会、教授会等において、各学部等の次年度授業計画を決定し、その後、各授業科目担当教員に対し、授業計画書(シラバス)作成に必要となる、「講義概要」「到達目標・卒業要件との関連」「授業計画・

時間外学修」「履修の条件・注意事項」「成績評価基準方法」「テキスト」「参考書」「オフィス・アワー」等を記載した作成要領について、FD研修会において説明・確認を行ったうえ作成を依頼している。

授業担当教員が作成した授業計画書(シラバス)は、2月～3月中旬に、各学部において、学部長等のチェックを実施し、授業計画書(シラバス)が正しく記載されているかを確認の上、必要に応じて修正を求めている。

作成した授業計画書(シラバス)は、3月下旬までに、大学ホームページで公表している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

単位の授与及び成績評価は、学則第 26 条及び第 30 条に基づき、試験の成績、平素の学修成績、出席状況等を総合して行っている。ただし、学修の成果を評価して単位を授与することが適切であると認められる授業科目については、各学部細則に定めるところにより当該学修の成果を評価して単位を授与している。

成績評価基準は、科目毎に「定期試験」「授業の取り組み状況」「レポート」「小テスト」等の割合を定め、履修要覧やホームページに記載し、あらかじめ学生に対し公表している。

各授業科目の成績評価は、授業計画書(シラバス)に明示した成績評価の方法と基準に従い、各教員が評価を行っている。また、一つの科目で、複数教員が担当する科目においては、成績分布に関する申し合わせ等を行い、評価にばらつきや不公平が生じないように認識の統一を図るなど、厳格かつ適正に評価し行っている。

成績の評価は、GPA に換算し、学生に周知しており、その結果を履修上限の緩和等への活用も行っている。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

成績評価については、アセスメントポリシーに関する規程において、学生の学修成果の評価の方針(アセスメントポリシー)について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法等に関し必要な事項を定め、達成すべき質的水準については、同規程第 4 条において、GPA 制度に関する規程に基づき GPA を算出する制度を定める。

GPA の算出方式は、学生が当該年度(または、在学中の全ての期間)に成績評価を受けた授業科目を次表のグレード・ポイント(GP)に変換し、当該科目の単位数を乗じて、その総和を履修登録合計単位数で除した値(小数点第 3 位以下切り捨て)とする。

成績評価(点数:100点満点)	GP
S(100~90点)	4.0
A(89~80点)	3.0
B(79点~70点)	2.0
C(69~60点)	1.0
D(59点以下)	0.0

<GPA 算出方法>

$$\frac{(S \text{ 評価の単位数} \times 4) + (A \text{ 評価の単位数} \times 3) + (B \text{ 評価の単位数} \times 2) + (C \text{ 評価の単位数} \times 1)}{\text{履修登録合計単位数}}$$

(※ なお、教職課程科目、単位認定科目については、その計算式には含めない。)

GPA を活用した調査、分析は、授業科目については、各学部 FD 委員会及び担当教員が授業科目の成績評価の分布及び授業評価の結果を確認し、授業の改善・向上・開発に取り組んでいる。教育課程については、各学部・学科において検証の結果を共有し、全学又は学部・学科として改善・向上・開発に取り組んでいる。

また、各学部は、全学 FD 委員会及び IR 推進本部へ定期的にデータ提供を行い、IR 推進本部において成績分布や GPA などの分析を行っており、全学部生の GPA 分布(ヒストグラム)をホームページ上で公表している。

また、科目別学業成績(年度別比較表)を学期終了時に作成し、教務担当事務窓口にて公表している。(学内のみ公表。)

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

○法学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げている。本学部にて4年以上在学し、所定の単位（124単位以上）を修得した者に対して、学士（法学）の学位を授与している。

教養教育科目（共通） 必修8単位、選択26単位以上

法学専門教育科目（コースを選択）

公務員コース 必修58単位、選択必修12単位以上、選択8単位以上

企業法務コース 必修46単位、選択必修16単位以上、選択16単位以上

演習科目（共通） 必修12単位

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 基本六法を中心とする諸法律に関する幅広い知識及び高度な専門性を有する分野の知識を身に付けている。
2. 社会情勢の変化や多様なニーズに対応し得る法的思考能力及び判断力、行動力を身に付けている。
3. 上記1と2の能力を法曹、行政、税務等の専門的職業において発揮するための応用力を身に付けている。
4. 深い教養と豊かな人間性及び国際性を身に付けている。

卒業認定は、学則第34条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○経営学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げている。本学部にて4年以上在学し、所定の単位（124単位以上）を修得した者に対して、学士（経営学）の学位を授与することとしている。

基礎教育科目 必修8単位、総合教育科目 選択22単位以上

言語教育科目 選択必修4単位

専門教育科目 必修42単位、選択必修8単位、選択40単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. ビジネスマインドを備え、地域と事業の発展に貢献し、組織の一分野を担いうる知識と技量を身につけている。
2. 情報を活用して適切なコミュニケーションと意思決定を行いうる知識と技量を身につけている。
3. ソーシャル・キャピタルを理解し、実践的に経営に参画、挑戦できる企画力・実践力を身につけている。

卒業認定は、学則第34条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○保健医療学部看護学科

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位（125 単位以上）を修得した者に対して、学士（看護学）の学位を授与している。

教養基礎科目 必修 14 単位、選択 10 単位以上

専門基礎科目 必修 28 単位、選択 1 単位以上

専門科目 必修 70 単位、選択 2 単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 看護の対象となる人々を全人的に理解し、関係を構築する能力を身につけている。
2. 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する姿勢と高い倫理観を身につけている。
3. 保健医療福祉チームの一員として、多職種間で連携・協働できる基礎的能力を身につけている。
4. 根拠に基づき必要とされる看護を判断し、計画的に実践する能力を身につけている。
5. 社会人としての豊かな学識、国際性を身につけている。
6. 看護が果たすべき社会的責務を理解し、社会に貢献する基礎的能力を身につけている。
7. 看護学の発展に寄与できる探求心および基礎的な研究的態度を身につけている。

卒業認定に関する規定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○保健医療学部健康スポーツ科学科

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位（124 単位以上）を修得した者に対して、学士（健康スポーツ科学）の学位を授与している。

教養基礎科目 必修 8 単位、選択 18 単位以上

専門教育科目 必修 76 単位、選択必修 2 単位、選択 20 単位以上

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. オールラウンドなスポーツ実践能力
2. ライフステージに応じたスポーツ指導能力
3. 健康やスポーツを科学的視点から捉える思考能力
4. スポーツにおける企画及び管理・運営能力

卒業認定に関する規定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

○歯学部

教育目的に基づき、卒業時に次の到達目標（ディプロマ・ポリシー）を達成することを掲げており、卒業に必要な所定の単位を修得した者に対して、学士（歯学）の学位を授与することとしている。

基礎教育系科目 23 単位以上

専門教育系科目 6,775 時間以上履修し、修了の認定を受ける

ディプロマ・ポリシーは次のとおり

1. 歯科医師として必要な倫理観や人間性を身につけるとともに、幅広い知識と豊かな教養そして社会性を有している。
2. 地域社会や国際未来社会で活躍できるコミュニケーション能力や英語能力を有しているとともに幅広い視野とリーダーシップを有している。
3. 歯科医学の専門知識及び口腔疾患の予防・診断・治療に関する知識・技能を修得している。
4. 全身医学との関連を理解し、患者にとって良質で安全な歯科医療を実践することができる。
5. 多様化する地域社会の歯科医療ニーズにきめ細やかに対応し、口腔ケア、在宅歯科診療や、地域包括ケアシステムなど多職種連携チーム医療をもとに、地域社会に貢献する歯科医療を実践できる高い臨床能力を身につけている。
6. 研究心と論理的思考能力を持って日々進歩する歯科医学・歯科医療を常に研鑽し、歯科医療の発展のために生涯にわたり自らの歯科医療の知識と技術の向上を図ることができる。

卒業認定は、学則第 34 条に記載のとおり、学長が教授会の意見を聴いて卒業を認定している。

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
保健医療学部	看護学科	125 単位	有・無	年間 45 単位
	健康スポーツ科学科	124 単位	有・無	各年次における学期毎 22 単位
法学部	法学科	124 単位	有・無	各年次における学期毎 22 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有・無	各年次における学期毎 22 単位
歯学部	歯学科	223 単位	有・無	— 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 : https://www2.asahi-u.ac.jp/asahi-ir/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 : https://www2.asahi-u.ac.jp/asahi-ir/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法 : http://www.asahi-u.ac.jp/inf/f_shisetsu.html

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
法学部	法学科	685,000 円	300,000 円	240,000 円	施設維持費
経営学部	経営学科	685,000 円	300,000 円	240,000 円	施設維持費
保健医療 学部	看護学科	725,000 円	300,000 円	700,000 円	施設維持費、実習費
	健康スポーツ 科学科	725,000 円	300,000 円	290,000 円	施設維持費
歯学部	歯学科	1,900,000 円	400,000 円	1,180,000 円	施設維持費、教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

- ① オフィスアワーについては、履修要覧や履修の手引き、更には教員の研究室のドアに掲示して学生に広く周知し、学生の様々な疑問や相談に応えられるようにしている。
- ② TAを活用し、主に実習科目を中心に配置し、彼らに授業運営全般の補助を行わせることで、学部学生に対する教育効果を高めている。
- ③ 指導教員制度を設け、学生一人一人に対して専任教員が指導教員となり、修学指導に限らず生活・就職指導等についても、在学中一貫した個別指導体制をとっている。
- ④ 資格取得支援については、法学部・経営学部は、実社会で必要となる基礎能力の修得と資格取得をサポートする体制を整備している。学生が自主学修により、本大学指定の資格（入学年度に応じて69～102種類）を取得した場合には、本学で定めた資格ランクに応じて奨学金を支給する制度を設けている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

<法学部・経営学部>

就職先企業と学生とのベストマッチを目指した就職支援

- ・個性・自主性を発揮できる能力育成

学生一人ひとりに合わせた個別指導と企業情報のアドバイスを行っている。

- ・業界研究・企業研究

2年生、3年生を対象に、各業界を代表する企業に講演いただき、学生が通常では見ることのできない仕事や業務内容を実際に確認できる機会をもうけている。

- ・ひと足早く社会人を体験するインターンシップ制度

企業と大学による面接合宿

3年生を対象に、企業の人事担当者様を講師に迎え、1泊2日で本番に近い形の模擬面接を行っており、本番同様の環境のもと、自己の強みや将来の希望を明確化させビジネスの第一歩としている。

<保健医療学部看護学科>

看護学科の学生は、そのほとんどが看護師を目指している。学生の就職活動に関して、教員、学事担当課及び就職支援課が連携して、次のような支援を行っている。

1. 病院等からの求人情報の案内
2. 就職ガイダンスの開催
3. 履歴書作成及び面接の指導

<保健医療学部スポーツ科学科>

2年次及び3年次を対象として、「キャリア形成Ⅰ」「キャリア形成Ⅱ」を開講し、学生各自が将来を見据えながら、自らが考え行動することができるように、エンプロイアビリティを高めていくための意識付けや訓練を行い、社会人としての基礎力を身に付けることを目指すとともに、生涯的な職業選択の意識付けを高めている。

<歯学部>

6学年学生及び本学既卒者を対象とした歯科医師臨床研修制度に係る説明会を開催している。

<AGO (ASAHI GROWTH OPPORTUNITY) の設置>

学生のキャリアのための成長と機会を提供する場としてAGOを設置している。

AGOは、企業情報収集やエントリー、webテスト用のパソコン設置や、就職資料・図書・新聞等を揃え、学生の就職活動の拠点となっている。また、面接可能なスペースや面談室、オープンスペースを多く用意し、教員・職員と相談しやすい環境を整えている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

本学における学生に対する健康相談、心的支援、生活相談等は、保健管理に関する専門的業務を総合的に行うとともに、学生の身体的、精神的健康管理及び維持・増進を図ることを目的として、健康管理センターと学生の学修支援・障がい者支援等を目的として設置された「学生支援センター」、並びにそれ以外の生活相談等を担当する「学生相談室」を設置しており、これらを担当する職員を置き、各担当者が相互に連携を取りながら学生支援に当たっている。

① 健康相談については、学生からの学生相談室への相談によるほか、健康管理センターが主管する学生定期健康診断における医師の所見に基づき、学生に精密検査を促す等の対応をしている。

② 心的支援については、学生相談室を窓口とし、学生相談員が対処できる事項については、学生指導教員と連携して面接指導を行い、適切な助言を与えている。また、対処が困難なものや学生本人が希望する場合については、健康管理センターに配置する専門医がカウンセラーとして対処している。

キャンパス内には、歯科・内科・スポーツ整形外科のある朝日大学医科歯科医療センターがあり、ほかにも朝日大学病院、PDI 岐阜歯科診療所を有しており、三医療機関に受診時の診療費から自己負担金を補助している（保険診療の場合は全額補助、自費診療の場合は半額補助）。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：http://www.asahi-u.ac.jp/inf/f_kouhyou.html